

追悼

植村慶一先生を偲ぶ

(慶應義塾大学医学部生理学教室) 岡野 栄之

本学名誉教授であられる植村慶一先生は、昨年平成 29 年の 12 月 29 日 16 時 5 分、急性呼吸不全のためご自宅でご逝去されました。享年 82 歳であられました。ご葬儀は、ご親族の方々のみで行われました。昨年末の 12 月 30 日に、その日から休みを取っていた私の自宅に一本の電話がかかって来ました。植村先生のご家族からでありました。「突然ですが、父・植村慶一が昨晚亡くなりました。。。」とお話には、私は一瞬何のことかわかりませんでした。つい最近も、医学部開設 100 年の祝賀会にご出席いただきお祝いの言葉をいただいたり、医学部開設 100 年記念の冊子の原稿で相談させていただいたり、学部長職を終えた私を労っていただいたりと、とてもお元気であった植村先生が、御急逝されるとは、私は全く心の準備もなく、言葉もでなかったのを私は生涯忘れることはないでしょう。大変面倒見がよく、誰に対しても暖かく、そしてフェアに接してこられた人格者である植村先生の周りにはいつも多くの人たちが集まっていました。テニスと賑やかな食事会が大好きで、本当にいつも周りの人々を楽しませてくれる素晴らしい先生でありました。まだまだいくつも、ご報告したいこと、相談したいことが山ほどありましたが、もう先生にお目にかかれる事が、出来ないかと思えますと、本当に残念であります。

植村先生は、昭和 34 年に慶應義塾大学医学部をご卒業され、当時東邦大学大学院において塚田裕三教授の神経化学的研究手法の薫陶を受けられました。その後フランスのストラスブール大神経化学中央研究所の Mandel 博士の研究室に留学し研鑽を積み、末梢神経系のミエリンを構成する P0 および P2 蛋白質、さらに L1、PMP22 などの細胞接着蛋白質の構造と機能および病態解析で国際的に注目される成果を上げられました。また、30 歳代で、埼玉医科大学生理学教室の初代教授として着任され、以降 16 年間、同大学の創成期において大きく貢献されました。同 50 年、北里賞を受賞されました。昭和 63 年に塚田教授の後任として、慶應義塾大学医学部生理学教室教授に就任され、11 年間勤められ、その間、抜群のリーダーシップを発揮され、白尾智明 博士(現・群馬大学医学部教授)、岡本仁 博士(現・理化学研究所脳科学総合研究センター・副センター長)、三浦正幸 博士(現・東京大学薬学部教授)、戸田正博 博士(現・慶應義塾塾長大学医学部脳神経外科学教室准教授)など多くの人材を輩出されまし



植村慶一教授

た。また、植村先生は、日本神経化学会の理事、理事長として発展に尽くし、1994年には国際神経化学会（ISN）のカウンシルメンバーを勤め、日本での学会の開催を行なったという素晴らしい足跡を残されました。このような素晴らしい先輩をもつ私たち日本神経化学会の現役のメンバーは、本当に幸せだと思います。植村先生のような素晴らしい国際的な指導力と人徳を、皆で磨いていくことこそ、植村先生の後輩の私たちの責務だと思っております。